

会員と千葉県連盟をつなぐ

ちばニュース

2018年 3月号



千葉県勤労者山岳連盟

Chiba Workers Alpin Federation

2018年 3月 1日発行 通巻299

3・11を忘れない

被災地支援を続けよう

3月号目次

・ 目 次	2
・ 全国連盟総会報告（1）	3
・ 〃 （2）	5
・ ロングハイク報告	6
・ 雪上技術講習会案内	7
・ 雪上技術講習申込書	8
・ 足尾植樹祭案内	9
・ ココヘリ普及案内	10
・ 県連たより	11
・ 3月・4月予定表	12

表 紙 説 明

3・11、テレビの画面にくぎ付けになり、あまりのショックで声も無く、現実の事と受けとめる事が出来なかった。

4・7、千葉県連は宮城県気仙沼唐桑半島に支援隊を派遣した。

そこには、テレビで見たのと同じ光景が、いや、それ以上の想像を絶する現実があった。

その後、気仙沼には何度行ったのか、2年経っても、3年経っても被災現場は変わらない。

気仙沼の行き帰りに見た大きな船、周りが片づけられても、空き地となった住居跡に草が生えても、大きな船は残されていた。

それは、震災のシンボルとなり、残すか、撤去するか議論になった。

「出来る人が、出来る時に、出来る事」を合言葉に、「震災を風化させない」「被災者に寄りそった支援の継続」を目標に、NPO法人「ちば労山ゆう」を立ち上げた。

その「ちば労山ゆう」も、今期でNPO法人としての、活動を閉鎖するが、千葉県連は、設立の気概は引き継いで行きたい。

——編集者——

全国連盟第 33 回総会に参加して

安彦 秀夫（東葛山の会）

日時：2018年2月17日（土）12：00～18日（日）12：30（1泊2日）

場所：ホテルコンチネンタル府中（東京都府中市）

参加者：出席 66 名、委任状 9 名（議案採択時資格審査結果）（代議員定数 83 名）

千葉県連参加者(6名)：全国連盟役員 2 名、代議員 3 名、傍聴者 1 名

私は、2年前の第32回総会参加に続いての参加でした（会場は違いましたが…）。

北海道から鹿児島までの各都道府県連の代議員が集い、議案書に盛り込まれた多くのテーマに対して活発な質問や提案、そして各地方連盟からの活動報告が2日間に亘りありました。

議案書に対する主な質問は、次の通りです（順不動）。

- ① ROUSAN パートナーズ制度閉鎖に伴う総括関連（新たな検証委員会で改めて検証する）
- ② リニア新幹線問題関連（計画の凍結・見直しを求める）
- ③ 2018年全国登山研究集会開催関連（愛知県連主管で11月に開催）
- ④ 登山時報、ろうさんニュース、メールニュース関連（統合、デジタル化など）
- ⑤ 労山自然保護憲章関連（内容学習啓発ではなく、内容実践啓発に取り組む…に修正）
- ⑥ パソコンなどの使用機器償却関連（情報漏えい防止の観点から）
- ⑦ 広域理事制度導入関連（規約にはないが関東以外の地方ブロックから選出）
- ⑧ 各会で徴収している会費内訳関連（所属会、地方連盟、全国連盟の内訳把握）
- ⑨ 会員拡大関連（特に、活動継続する上での若者への働きかけが重要）など

2日目に、全国連盟理事長から討議の纏めの報告があり、提案された次の議案3件は、一部の字句を修正して全て承認されました。

- ① 第1号議案：第32期下期（2017年）活動総括と第33期上期（2018年）活動方針
⇒ <満場の拍手で承認>
- ② 第3号議案：新特別基金の規定、細則、内規の改定（4件）
 1. 基金制度の名称変更（労山新特別基金制度→労山山岳事故対策基金制度）
 2. 救護者費用の改定（交通費の実費 5万円を限度として交付→……10万円……）
 3. スキー場での事故の認定 次の内容が追加されました。
（山スキー装備で山スキーのトレーニング中の事故に限り交付対象にする）
 4. 事故者の当該会の救助出動者の日当支給
（これまでは日当支給除外でしたが、危険手当としての日当支給を認める）
（支給額：夏季1日10,000円上限、冬季1日15,000円上限）⇒ <満場の拍手で承認>（改定内容は、2018年4月1日以降の事故に対して適用）
- ③ 第2号議案：第32期下期（2017年）決算と第33期上期（2018年）予算
⇒ <決算と予算を別々に採択→どちらも挙手による賛成多数で承認>

続いて、第 33 期の『全国役員』の信任投票が実施され、推薦者全員が信任されました。退任者及び新役員の代表者からそれぞれ挨拶がありました。

千葉県連関連では、次の 3 名が役員として信任されました（敬称略）。

副理事長：廣木國昭（ちば山の会）再任

理事：山本尚徳（かがりび山の会）再任、 石川晶（船橋勤労者山の会）新任

※新年度も宜しくお願いします。

信任投票・開票の時間を利用して、『荣誉功労賞・永年会員章』、及び、新特別基金制度の『報奨金』の表彰・授与が行われました。

千葉県連所属で『報奨金』の表彰・授与された会は、次の 4 会です。

君津ケルン山の会

まつど山翠会

まつど遠足クラブ1年さくら組

千葉民医連山を歩こう会

(写真) 新役員紹介



私が個人的に関心のあったテーマは、次の 2 点で、質問をしました。

① 新特別基金制度の内規での『スキー場での事故認定』

→通常のゲレンデスキーでの事故は対象外。山スキー関連であれば交付対象になる。

② 海外委員会活動

→千葉県連として今後どのように展開していったら良いのかを模索中なので、ヒントを得たかったのですが、私の満足するモノは得られませんでした。しかし、他連盟の代議員から問い合わせなどがあり、横の連絡も取りながら進めていきたいと思えます。

【感想】

第 32 期下期（2017 年）に脱退・解散届のあった会は、『10 会（103 名）』で、その脱退の原因・理由の多くが、『会員の高齢化が進み活動が困難・不能になった』でした。

多くの会で、会員の高齢化が進んでいるようです。私の所属している会も例外ではなく、最近実施された千葉県連組織委員会のアンケートの当会の『会員年齢構成』で、『50 歳未満：0』、『50～69 歳：1 名』、『60～69 歳：26 名』、『70 歳以上：29 名』でした。高齢化が進んでいることを知っていたにも関わらず、この数字を見た会員からは溜め息が漏れたほどでした。

『楽しく安全な登山を会として継続していく』ためにも、会員拡大、特に若者の加入に向けて努力すると共に、常日頃から安全登山の教育を実践していかなければ…と改めて思い知らされた 2 日間でした。
(2018/2/23/Fri.)

参加報告

菅井 修（ちば山の会）

他の代議員と重複しない様に報告します。

1 労山パートナーズの完全閉鎖について（2月末をもって閉鎖する）

① 労山パートナーズが目指した方向は妥当であった。

登山界の情勢にみあったものであり、成功すれば登山界に新風を吹き込んだはずのものであった。

② なぜ成果を上げられなかったか。

- ・ 新しい登山者が何をもとめているか、分析や方針が不十分であった。
- ・ 広範囲に広げるには資金力不足・取り組みも微々たるもので労山単独の事業で広がりには欠けた。
- ・ 全国理事会主導で進めたこと、導入時に強い反対意見があり全体的な合意が不十分なまま開始した事で、地方連盟との協力が不十分であり労山全体の力を結集出来なかった。

③ 今後の課題について

- ・ 新しい事を実施する場合には十分な論議をつくり、全体で合意する事。
- ・ 関連した他団体と協力して実施する。
- ・ 新しい登山者層について、深く把握することが重要である。

これについて幾つかの質問や、なぜこんな事になったかの説明が不十分との意見が何人かの代議員から出された。

2、労山会員の高齢化が進んでいる中で、市民参加の山行等が大きな成果を上げているとの報告もあった。いずれにせよ積極的な会員獲得運動が必要だと思う。

3、南アルプスリニア建設反対運動について

リニア工事に伴う南アルプスの自然環境への影響は計りしれない。計画の凍結や見直しを求める取り組みを継続する。

これについて、私は山の会としてトンネル掘削関連工事による自然破壊、大量の残土による周囲と下流域の土砂災害の恐れ、湧き水とそれに伴う問題など不明瞭な大問題が考えられる。たとえこれらの影響をクリアしても、フオッサマグナの大断層を横切り、年間3～4mmも隆起している南アルプスの直下にトンネルを掘る事の無謀さを指摘したい。

そして最大の問題は、完成後に必要な電力問題がある。運行時に、新幹線の3倍以上のエネルギーを必要とする事や電磁波公害など解決できない大問題がある。この様な観点から反対運動を継続する必要がある。

「リニア新幹線で南アルプスの自然を壊さないでください」署名のお願い

千葉県連の署名集計数（2017年2月7日）現在、469です。

引き続き、署名活動を継続しています。ご協力をお願いします。

・ 署名活動についての問い合わせは：自然保護委員長・菅井 修まで

Eメール： fa23475@wa3.so-net.ne.jp

第 34 回房総ロングハイキングを終えて

日 時 2018 年 1 月 27 日 (土) 28 日 (日) 一泊二日
参加会 松戸山の会 6、遠足クラブ 3、岳人あびこ 8、東葛山の会 9、かがりび山の会 7、
こまくさハイキングクラブ 11、茂原道標山の会 1、市川山の会 2、ちば山の会
3、君津ケルン山の会 4、ふわくハイキングサークル 4、 計 58 名

27 日 (快晴)

東葛地区バス組は「鋸山車力道」を山頂まで往復してから七里川温泉に合流、
他会メンバーは思い思いのコースを散策してから、と、直接来て合流しました。
到着と同時に互いに持ち寄った干物を炉端焼きして食し、飲み、すでに出来上がった
状態です。

15:30 大広間会場に移り、県連会長 広木氏挨拶、乾杯のあと東葛山の会会長 安彦
氏の海外登山の講義を聞き、食事、交流を暫くして、最後に海産物 3 種類の争奪じゃ
んけん大会で締めくくり、明日に備えて就眠にしました。

28 日 (晴後曇り小雨)

温泉 6:00 皆元気に出発、石尊山、モミ次郎、モミ太郎、辺りまでは順調に進むも、
だんだんと残雪などで足を取られて、麻綿原に到着が予定より時間が掛かり、これ
より先を進むと日没後になってしまう。との判断で残念ながらここでリタイヤして、
一杯水林道を清澄寺から駐車場まで歩き終了する事になる。

七里川温泉で報を受け、主人に頼み、急ぎ皆の荷物を積み込み、清澄駐車場に急行、
皆と合流其々乗車、解散となった。今年も残念、完登出来なかった。

かく言う肝心な私 (桑原) は日頃の行い良くなく、風邪をこじらせてしまい、二日
目はダウン、七里川温泉で静養することになり皆様に大変迷惑を掛けて申し訳なく
思いました。

ロングハイク行事ではありませんでしたが、28日の東葛地区ハイキングに参加
した会員が下山途中に残雪で足を取られて「左足首骨折」で帰った事を後から聞き
ました。ロングハイク中の事故ではありませんでしたが、リーダー失格と反省して
います。

参加者も年々高齢化して歩行も遅くなって来ました。これからのロングハイクの
山行コース選定を考慮する時期に来ていると思います。

ハイキング委員会として、検討が必要と感じています。

ハイキング委員長 桑原年一 (記)

桑原ハイキング委員長、風邪で熱がある中ご苦勞様でした。

本来であれば、自宅で療養する状態でしたが、ロングハイクへの情熱と責任感
で、今回も陣頭指揮を執りました。

ご苦勞様でした。(無理はしない、させないで下さい)

——編集者——

2018 雪上技術講習の案内

千葉県連教育遭難対策委員会

今年度も残雪期の事故防止を目的として、雪上技術講習を実施します。主に単独では取り組みが難しい会を念頭に置いて、主要会に協力頂き、下記要領で開催しますので、積極的な参加を望みます。

記

主催：県連教育遭難対策委員会

協力：ちば山の会 船橋勤労者山の会 山の会「岳樺クラブ」 かがりび山の会

日時：4/7（土）現地集合7：30 開始8：00～13：00

場所：谷川岳・マチガ沢出合い付近 現地集合

講習内容：雪上技術訓練 初級及び中級

一般的な冬山登山でのロープワーク含む。

参加費：1,000円/人 各会毎に現地支払い。

交通/宿泊：各会毎に任意。宿泊は、土合山の家（tel 0278-72-5522）、
マチガ沢出合付近、ロープウェイ駐車場での車中泊等。

参加会の事前打ち合せ：3/29（木）19：30～県連事務所

持参装備：雪山装備一式（アイゼン ピッケル ハーネス カラビナ スリン
グ ヘルメット

雪崩対応としてビーコン スコップ ゾンデ棒<プローブ>

各会毎：ロープ1本（9*45 8*30等）

申込み：別紙申込書にて遭対委員会 伊東 宛<itou2385@yahoo.co.jp>
3/18（日）まで。

その他問い合わせ：遭対委員会 岡田 宛 ken-ichi@f4.dion.ne.jp

又は fax：043-271-4704

教遭委員会主催 講習会に積極的な参加をお願いします。

教遭委員会では、

初級登山者講習会、事故防止経験交流集会、雪上技術講習会を実施しています。

自会では実施出来ない講習会や訓練等は、県連主催行事に参加して下さい。

特に、冬山では絶対に必要であり身を守る「雪上技術の基本」「雪崩の知識」
については、基礎知識・技術を学ぶことが重要です。

ベテランも初心者も、1回の受講で終わらずに繰り返し学ぶことで、とっさ
の判断で身を守る事が出来ます。

会の仲間と参加してはいかがでしょうか？

足尾の緑を守る

第23回春の植樹デー

- ・ 4月21日(土)・22日
- ・ 足尾銅親水公園

千葉県連は、毎年参加しています。
今年も、各会に呼びかけて実施します。
足尾近郊の山行と、組み合わせて計画しては如何でしょう。
会場の近くには、管理されたテント場、バンガローもあります。
自然保護の原点、足尾銅山の現状を見て、復興植林を見て下さい。



植樹現場と植樹風景



- ・植樹苗木は、現地には用意してあります。持参した苗木も植樹出来ます。
- ・植樹道具は、スコップ、ツルハシ類を用意してあります。
- ・ハイキングの服装で、水、昼食を持参して下さい。
- ・「雨天決行」です。



復興支援海産物の売店も出店しています。
植樹に参加した高校生が、被災地支援に協力すると、少ない小遣いからワカメを買ってくれました。
毎年、大きな成果を上げています。

問合せ、連絡先 自然保護委員長 菅井 修
Eメール：fa23475@wa3.so-net.ne.jp

ココヘリの普及により遭難事故の減少を目指す提案

2018年2月17日

日本勤労者山岳連盟

遭難対策部

労山会員の道迷い事故について、多くはないが毎年発生していて、死亡・行方不明となる会員も出ている。2010年に長野県の御座山で行方不明となった東京の会員は、昨年7年が経過し失踪宣告が認められ、各種の手続きができるようになった。2016年に北アルプスで行方不明となった福岡の会員も未だに行方不明のまま、昨年5月には東京の会員が道迷いで、4日後に自力下山するという事故も発生している。

これらの遭難事故はココヘリ会員になれば、早期発見が可能となる。死亡・行方不明事故を1件でも減少することができるなら、安全対策基金を使う価値があると考えます。

今回「ココヘリ」を運営しているオーセンテック・ジャパン（株）から、労山会員限定の入会金割引50%（現状は3000円の10%）を提案してもらった。さらに残りの1500円を安全対策基金で負担することにより、入会金が無料で「ココヘリ」会員となることができる。

現在300名ほどの労山会員の「ココヘリ」会員を、大きく拡大するための施策として、安全対策基金の利用を提案したい。（予算100万円、目標700名）

今回は労山の「ココヘリ」会員が常時「ヒトココ」を携帯したくなるように、労山会員オリジナルのデザインも提案してもらっている。この機会に、ぜひ「ココヘリ」の普及を推進していきたい。



千葉県連会員の問合せ先は

- ・「千葉県連ホームページ・事務局への問合せ」
- ・急ぎの場合は：[「danphiro@zpost.plala.or.jp」](mailto:danphiro@zpost.plala.or.jp)（広木国昭）

県連たより

千葉県勤労者山岳連盟（千葉労山）

- ◎ 県連盟事務所
〒262-0033
千葉市花見川区幕張本郷 1-29-18
レジデンス幕張台 101 号室
TEL・FAX： 043-306-1190
Eメール：rousanchiba@grape.plala.or.jp
JR 総武線幕張本郷下車、海側 徒歩 5 分
(県連事務所に常駐者はいません)
- ◎ 加盟会員の事故一報送付先
教遭委員長・岡田 賢一
ken-ichi@f4.dion.ne.jp
Fax：043-271-4704
全国連盟事務局にも必ず送付の事。
- ◎ 連盟費振込み先
郵便振替口座 00160-3-481509
千葉県勤労者山岳連盟
- ◎ 「ちばニュース」原稿送付先
発行責任者：広木 国昭
dabphiro@zpost.plala.or.jp

NPO法人「ちば労山ゆう」

「ちば労ゆう」は、
今期で解散を予定しています。
ゆうの総会で提案予定です。
(3月29日 船橋市西部公民館)
千葉県連の、支援活動については
千葉県連総会(3月3日)で決定
します。
引き続き支援活動に取り組んで
行きたいと思います。
参加・協力をお願いします。
今後の支援活動について 会員の
皆様の意見をお寄せ下さい。
復興支援海産物の販売は継続
して行きます。
「食べて復興支援」
協力をお願いします。
出来る時に
出来る人が
出来る事を

【編集後記】

- ・全国連盟・第33回総会が開催され、。千葉県連から3名の代議員と傍聴者1名が参加した。参加報告を3ページ掲載しました。
長い間、晴海のホテルで開催していたが、改装中で府中のホテルに変わった。晴海では、2人部屋に簡易ベッドを入れて3人部屋、今回は、一人部屋だった、例年盛り上がっていた交流会も、ホテルの関係で出来なかったのでゆっくりと休むことが出来た。
幾つかの問題もあり、早急に解決すべき問題もあり、年々減少している会員数に対して、組織としてどう対処するのか明快な方針が待たれる。
- ・千葉県連定時総会が、3月3日(土)に開催される。
詳細は「ちばニュース4月号」に掲載したいと思います。代議員の皆さんから感想・要望等の投稿をお願いします。
- ・「ちばニュース」4月号は、通巻400号になります。
ちばニュースへの、要望・意見・思い出やエピソードなどを投稿して下さい。

県連活動予定表

3		行事予定	4		行事予定
1	木		1	日	
2	金		2	月	
3	土	県連総会(13時県スポーツ)	3	火	県連役員会
4	日		4	水	
5	月		5	木	
6	火	県連役員会(県連事務所)	6	金	
7	水		7	土	雪上技術講習会(マチガ沢)
8	木		8	日	
9	金		9	月	
10	土		10	火	
11	日		11	水	
12	月		12	木	ウィークデイ山行(宝篋山)
13	火		13	金	
14	水		14	土	
15	木	県連理事会(船橋西部公民館)	15	日	
16	金		16	月	
17	土		17	火	
18	日		18	水	
19	月		19	木	県連役員会
20	火		20	金	
21	水		21	土	足尾植樹祭
22	木		22	日	〃
23	金		23	月	
24	土		24	火	
25	日		25	水	
26	月		26	木	
27	火		27	金	
28	水		28	土	
29	木	ゆう総会(船橋市西部公民館)	29	日	
30	金		30	月	
31	土				

発行者 : 千葉県勤労者山岳連盟
 〒261-0013 千葉市花見川区幕張本郷 1-29-18
 レジデンス幕張台 101号室
 TEL・FAX 043-306-1190 (常駐者はいません)
 発行責任者 : 広木 国昭(danphiro@zpost.plala.or.jp)
 問い合わせは:千葉県連ホームページ・事務局への問合せまで